

イブラヒムの旅

境界を越えて

東京大学大学院人文社会系研究科

小松 久男

「※：このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。」

はじめに

アブデュルレシト・イブラヒムとは誰か？



1857年4月23日 ロシア帝国領内

西シベリア、トボリスク県に生

1944年8月31日 東京に没

ロシア、オスマン帝国、そして日本で活動
し、ユーラシアを広く巡った熱烈な汎イス
ラーム主義者

『ジャポニヤ—イスラム系ロシア人の見た明治日本』

アブデュルレシト・イブラヒム 著、小松香織、小松久男 翻訳

第三書館、1991年

イスラーム世界と日本を結んだ男

ロシアとオスマン帝国におけるイブラヒム(1)

- ・巡礼とメディナへの留学： 1880-1884
- ・ムスリム聖職者協議会(ウフアー)のカーディー職：
1892-1894
- ・ロシアの対ムスリム政策を批判するイスラーム主義者：

『ロシアのムスリム』カイロ、1900年



Габдеррәшид Ибраһимов
(1857-1944)

『イブラヒム、日本への旅 ロシア・オスマン帝国・日本』
小松久男 著、刀水書房、2008年、
p29写真5

ロシアとオスマン帝国におけるイブラヒム ②

1905年ロシア革命とムスリム・ジャーナリズムの展開

1. 改革主義のジャーナリスト:『ウルフエト』紙



イブラヒムの主著『イスラーム世界』第1巻
(イスタンブル、1911年)より

ロシアとオスマン帝国におけるイブラヒム ③

2. 1905年革命後のロシア・ムスリム民族運動の指導者

ロシア・ムスリム大会



ムスリム連盟 Ittifaq al-Muslimin



イブラヒムによるロシア・ムスリムの自治構想

Aftonomiya yake idare-i muhtariye, Sankt-Peterburg, 1907



日本を訪問したイブラヒム(1)

日露戦争(1904-1905)における日本の勝利に触発

1909年1月 - 1909年6月

1. 日本と日本人の詳細な観察: 庶民から大臣まで
2. 日本の急速な発展の要因
3. 日本人の美徳と「民族精神」の護持

4. ムスリム読者への日本事情の紹介



イブラヒムの著作『世界周遊』カザン、
1909年より

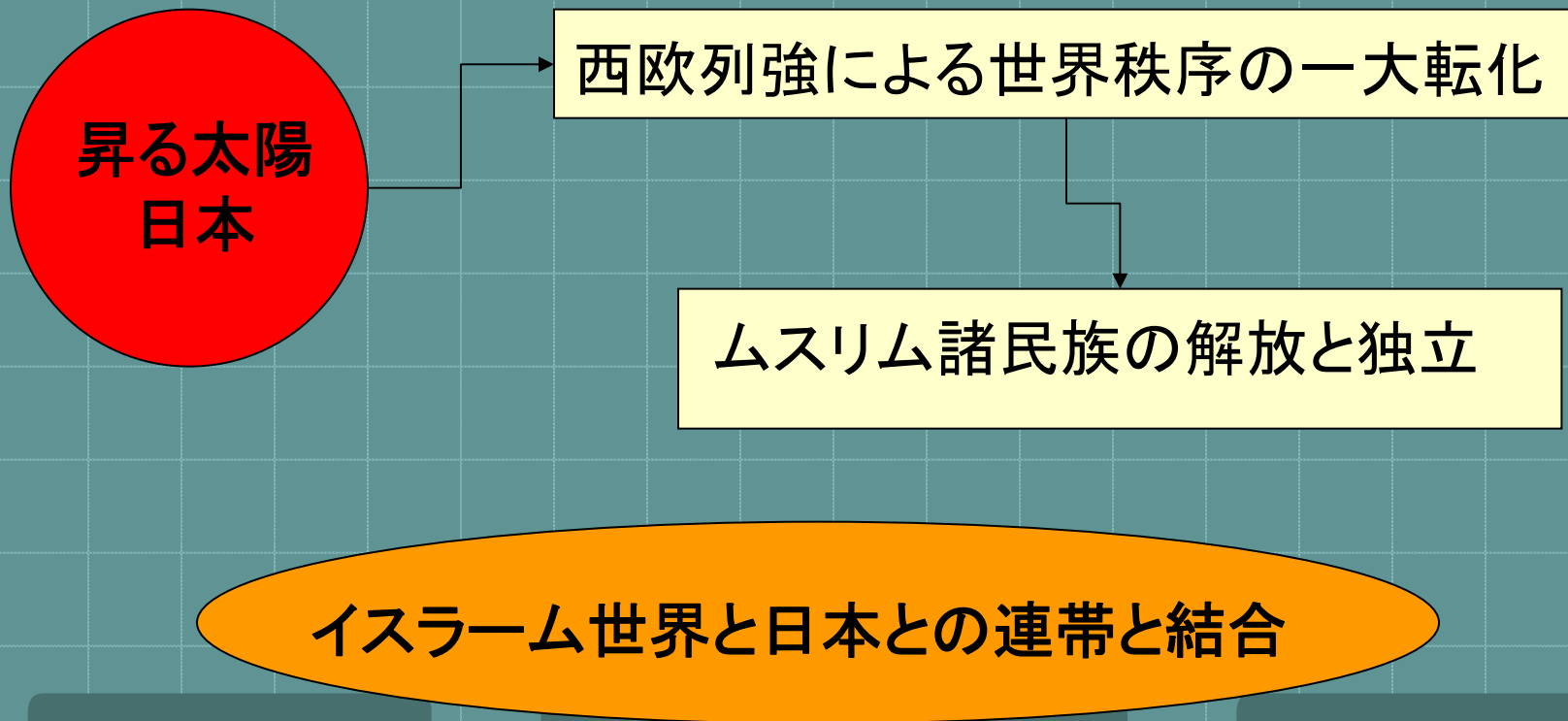


✚ 『イブラヒム、日本への旅 ロシア・オスマン帝国・日本』
小松久男 著、刀水書房、2008年、p66写真11

日本を訪問したイブラヒム(2)

イブラヒムの壮大な構想

従属を強いられたイスラーム世界の現状



日本を訪問したイブラヒム(3)

日本におけるアジア主義

西欧支配に対するアジア諸民族の統合

黒龍会: 頭山 満(1855-1944)と内田良平(1874-1936)

日露戦争(1904-1905)

朝鮮併合(1910): 伊藤博文

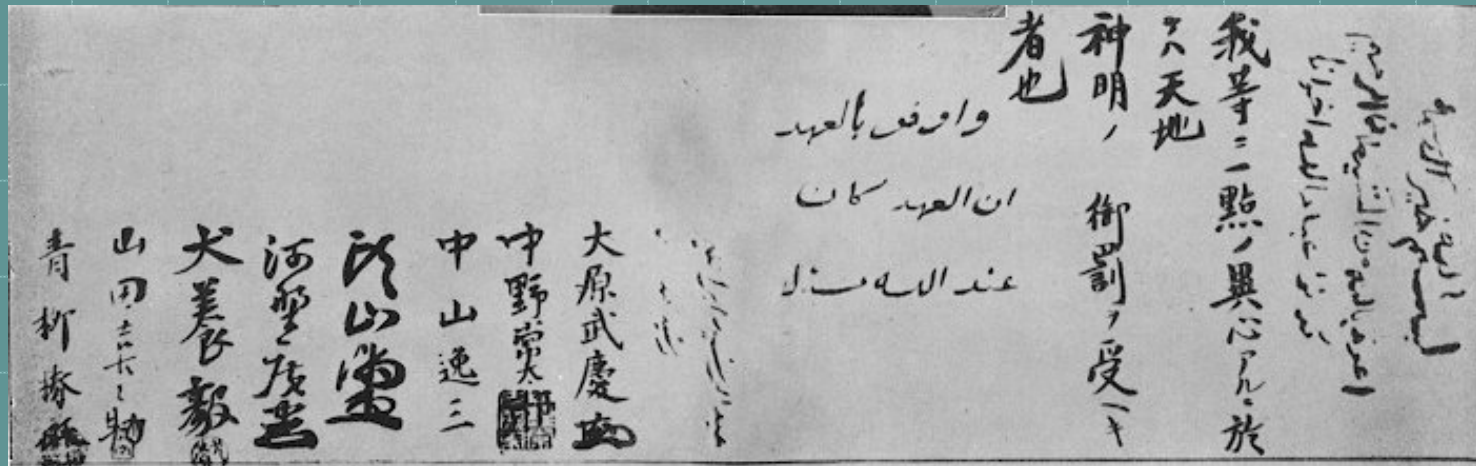
中国革命への支援: 1911年の辛亥革命



日本を訪問したイブラヒム④

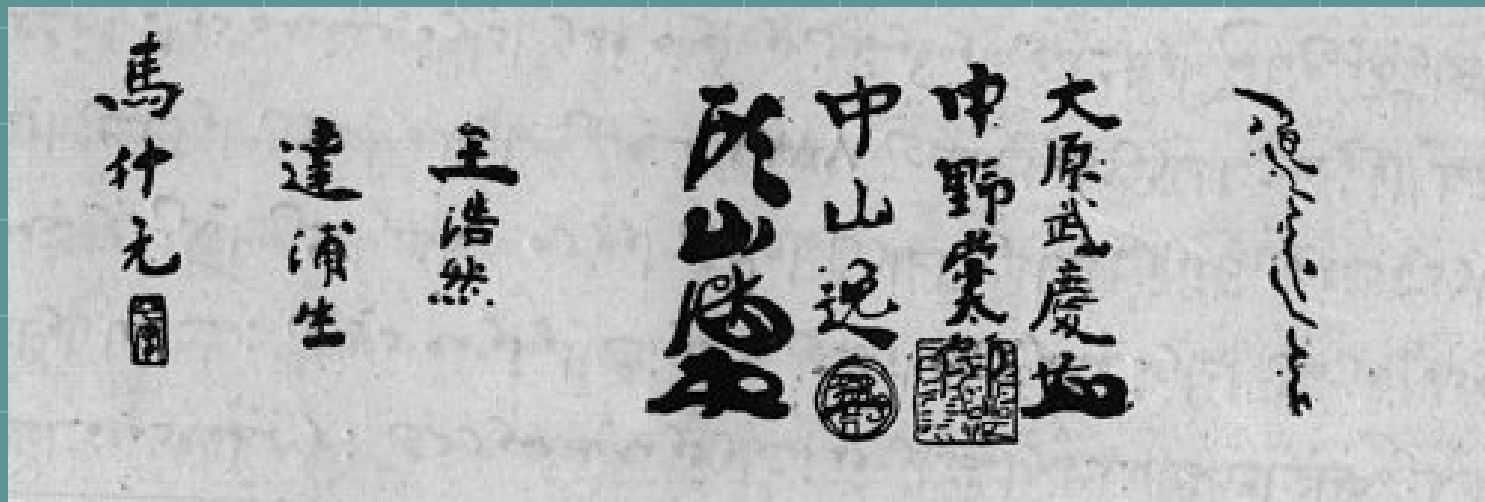
亜細亞義会

1. 1909年6月7日 有志により結成
2. アジア主義者と陸軍参謀本部



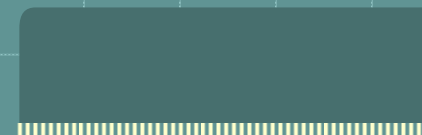
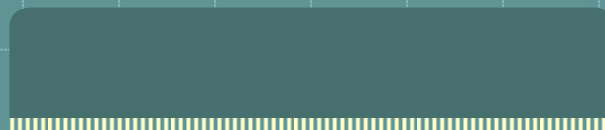
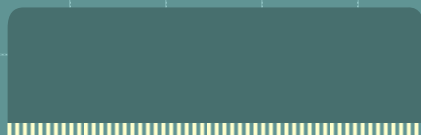
若林半：「回教世界と日本」（1937）

3. 中国ムスリム(回族)の指導者たち



イブラヒムの主著『イスラーム世界』第1巻（イスタンブル、1911年）より。

4. イスラーム世界の地政学的な重要性



日本陸軍とイブラヒム：宇都宮太郎日記

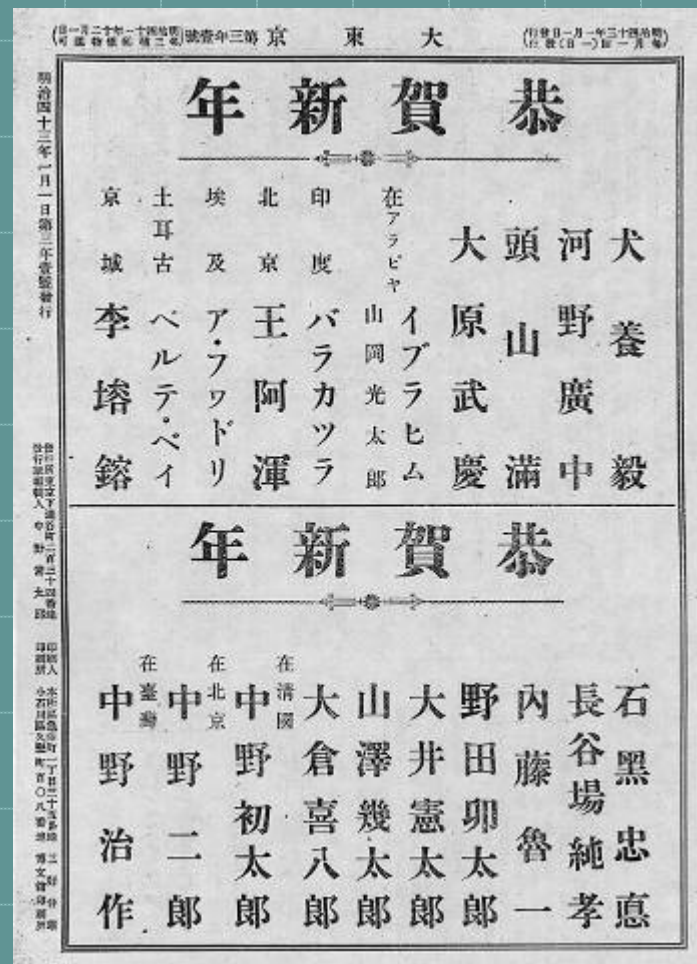
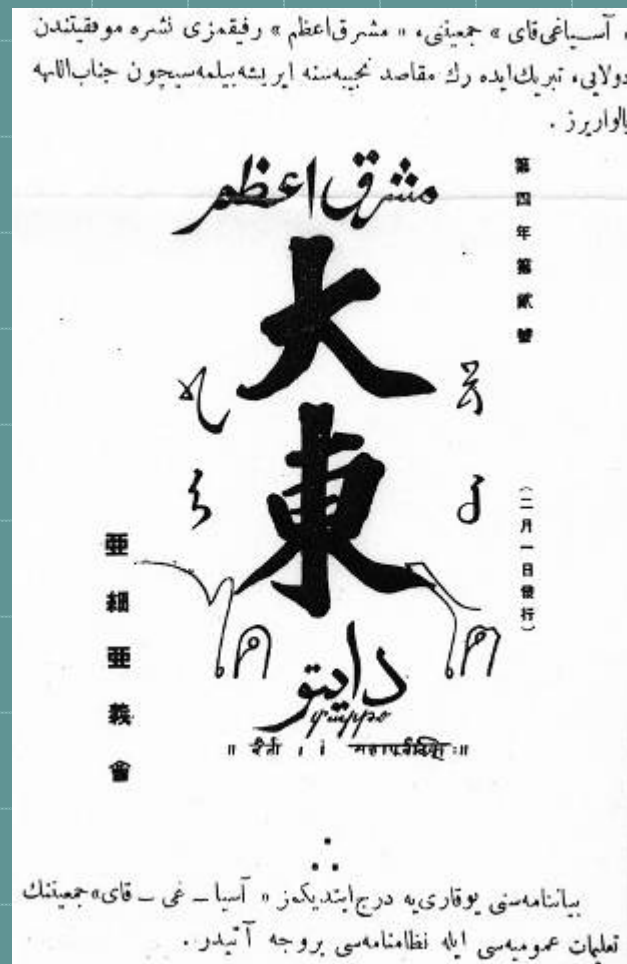
1909年5月8日：大原武慶、イブラヒムの反基督教同盟を主張し主意書を持参し謀る所あり、余の意見を授く。但し余は或時機までは直接には面会せず。

1909年6月6日：（歩兵将校2名を）露の亡命カザンの韃靼人イブラヒムを繋ぎ置く為め大原武慶に本日金三百円を渡すために招致

1910年3月14日：人物素性も不明なれども、果たして出来そ一ならば、・・・他日回教徒操縦の道具に利用し、・・・

宇都宮太郎関係資料研究会編『日本陸軍とアジア政策1：陸軍大将宇都宮太郎日記』
岩波書店、2007年より

5. イスラーム世界に向けての広報活動



戦争と革命の中のイブラヒム(1)

ناظره

۱۴

شما که کسی بی ملاحظه منفعت خود از جانی جنید باطل است زیرا
این زمان زمان مدیّت است مدیّت یعنی معاونت بنوع .
تصور کنید نیازی بیک ، انور بیک برای مشروطه استیابول
محت ها که کشیدند اگر نوع برستی نبود چه بود ؟ ستار خان ، باقر
خان جهت طلب مشروطه ایران خن خود را در کف دست گرفته
به هر طرف میدویدند جز آسایش نوع خود چه در نظر
داشتند ؟ عبدالرشید ابرهیم نوعی از منزل خود با دوازده صوم
روسی برای تأسیس اتحاد اسلام تاجین و ژاپون رفته در توکیو که
پای تخت ژاپون است چند نفر اعیان را مسلمان کرده یک جمعیت اسلامی
تشکیل داد غیر از خدمت اسلام چه مقصود داشت ؛ بعضی از وزیرای
ژاپون زمین که از هیئتشان کوه می لرزد اوقات بیکاری را به تعلیم
اطفال رعیت می پردازند یعنی بقول شما مکتب داری میکنند و از هیچ
س چیز نمیگیرند بلکه آنچه از خرج خود شان می مانند درین راه
صرف میکنند امروز در میان طائفة نصارا مردمانی هستند که سعی که
جز در راه منفعت نوع است باطن دانسته قاعل آن را انسان نمی شمارند

汎イスラーム主義のジャーナリスト

『イスラーム世界：日本における
イスラームの普及』1910年



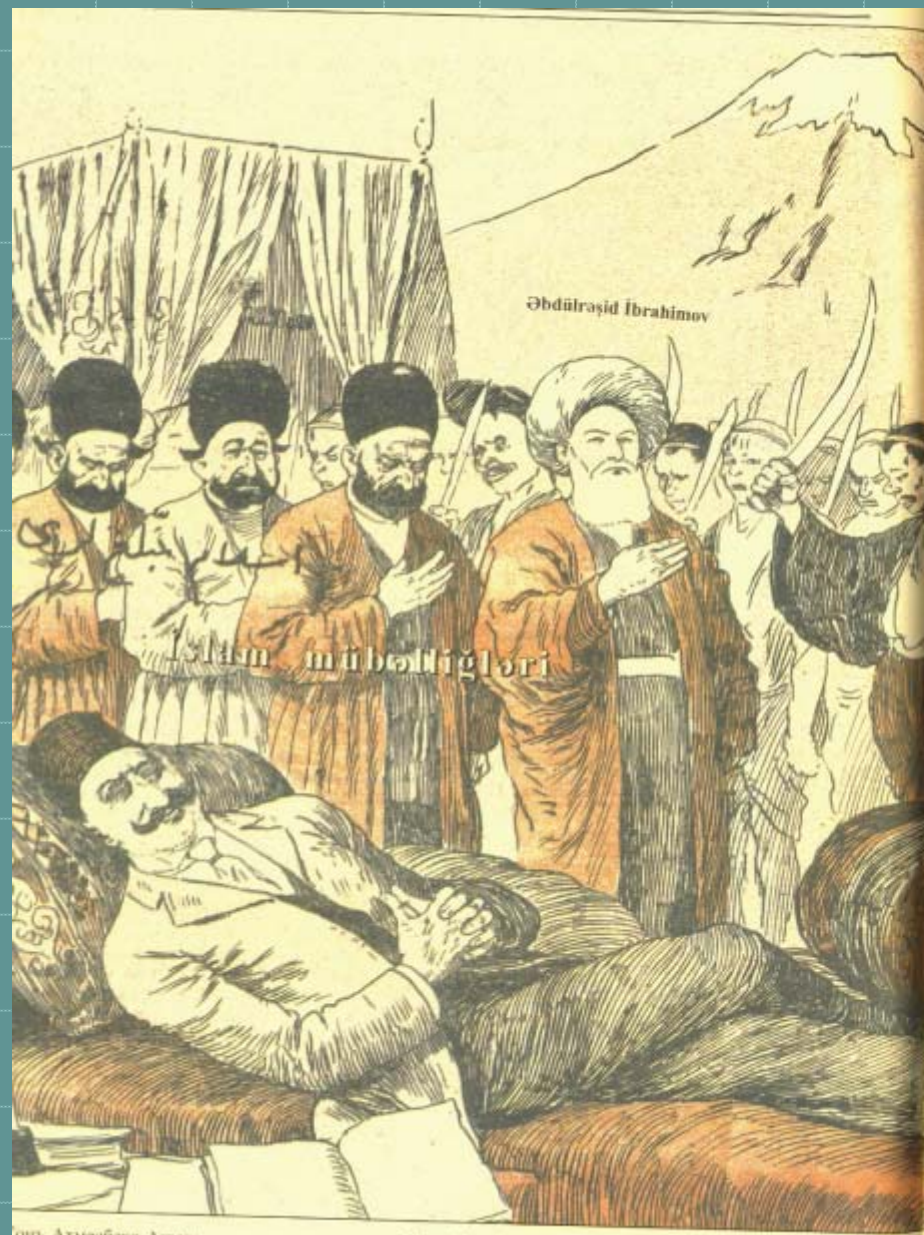
中央アジアの改革主義者

フィトラト (1886-1938)

フィトラト『争論』イスタンブル、1911年より



モッラー・ナスレディン 第4年14号 (1909年4月5日)

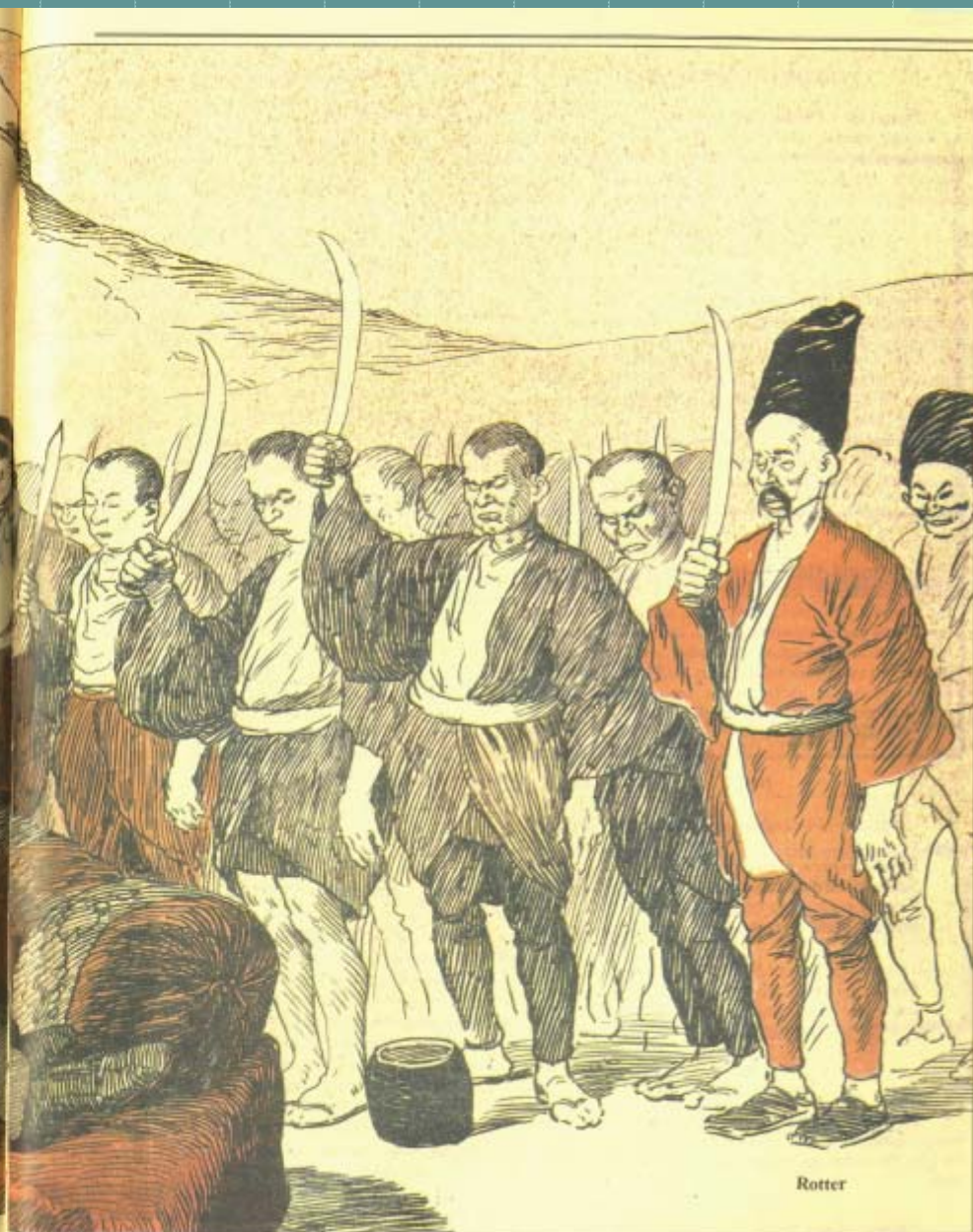


Əbdülrəşid İbrahimov

İslam mübəddiləri

онъ Ахмедбека Агаева.

Əhməd bəy Ağayevin yuxusu.



Rotter

Yaponiya İslamı qəbul edəndən sonra

Будущая Япония по принятию ислама

戦争と革命の中のイブラヒム（2）

○ トルコ・イタリア戦争（1911年）に従軍

北アフリカの前線でオスマン軍将兵を鼓舞

『大東』誌上の論説で日本外交を批判

○ 第一次世界大戦：従軍と工作・宣伝活動

ベルリンにおけるアジア大隊の編成

戦争と革命の中のイブラヒム(3)

1. ソビエト・ロシアのイブラヒム: 1918-1923

シベリア、ヴォルガ・ウラル、モスクワ

2. アタテュルクのトルコ共和国: 1923-1933

活動の場を奪われた汎イスラーム主義者

3. アンカラ駐在日本人武官との接触

再び来日したイブラヒム

1933年10月12日 – 1944年8月17日

1. 1938年5月12日 落成した東京モスクのイマーム



(経讀の翁ムヒラブイ老長) 葬教回の君平逸中田鐘天故

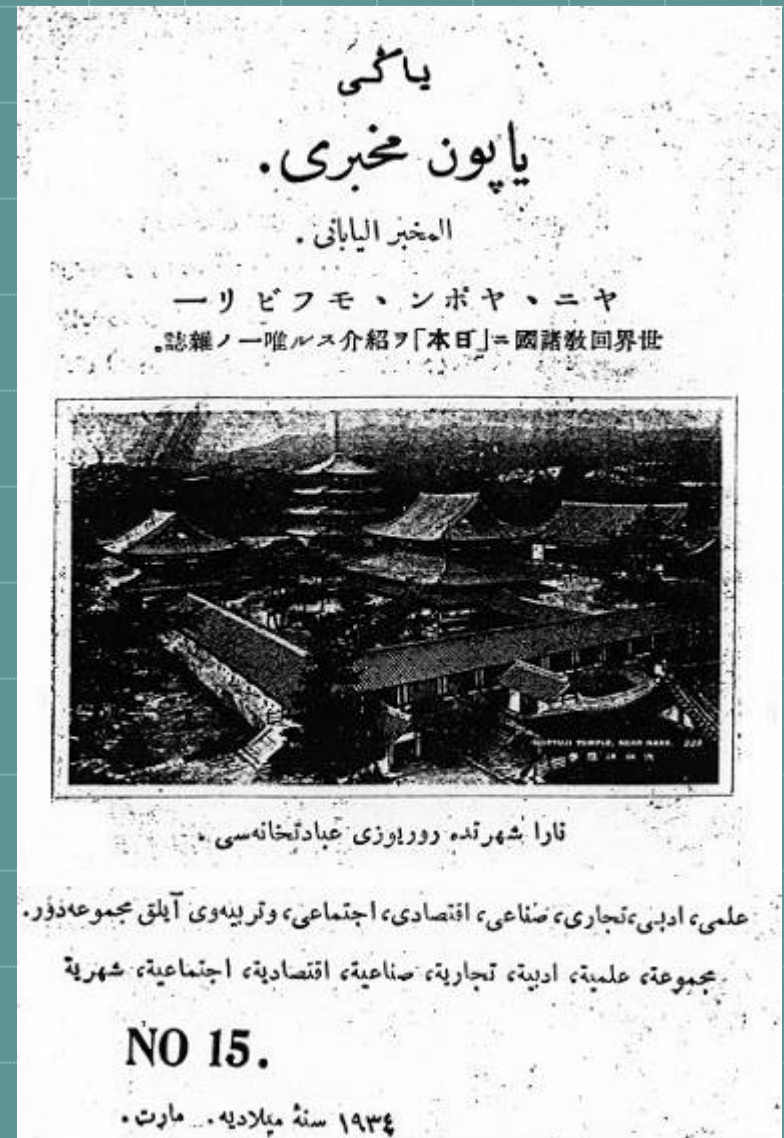
若林半：「回教世界と日本」（1937）

2.『新日本通報』に論説を寄稿

「アル・ジハード(聖戦)」
(1933年11月)

来るべき戦争における日本人と
の共闘の必要性

このジハードはすべてのムスリム
にとって義務であること







大日本回教協会（1938年）

戦時中の南方向け宣撫映画

『東京の回教徒』への出演
（1944年）



بسم الله الرحمن الرحيم
هو الحی الذي لا یوت

استاد وکاتب کبیر سیداع وصاله شریف

الحاج فاضل ممدالرویه حضرت اوزاریم
میرزا کزین الاول والی خان سید
الحاج ۱۲۹۴ ۱۲۸۴
عالمی ۱۲۸۴ ۱۲۷۴
۱۲۷۴ ۱۲۶۴
رحمه الله تعالى رحمه واسعه
وادخل جنه ربوسه آمین

KADI & HADJI ABDURRESHID IBRAHIM
BORN IN 1852 DIED IN 1944

おわりに

1. イブラヒムの主著『イスラーム世界』(全2巻)

20世紀初頭イスラーム世界の一断面

ムスリムの日本・日本人イメージの一つの源泉

2. イブラヒムと日本のイスラーム研究

井筒俊彦とイブラヒム、ムーサー・ビギエフ

3. 日本の対イスラーム政策の展開:これからの研究課題